

みんなのしるし合同会社 事業詳細

目次

2P、みんなのしるし事業の概要 及び 現在の取り組み

3P、情報杭システムの説明

4P～6P、教育アプリ「空間タイムカプセル情報杭プロジェクト」の説明
(6Pは、本年3月22日に行う“建立式”のプレスリリースです)

7P～9P、観光システム「みてけらっせん」の説明

10P、ミュージカル“いのちてんでんこ”の説明



みんなのしるし合同会社

〒022-0003 岩手県大船渡市盛町字町 6-29 盛商業福祉会館 2F

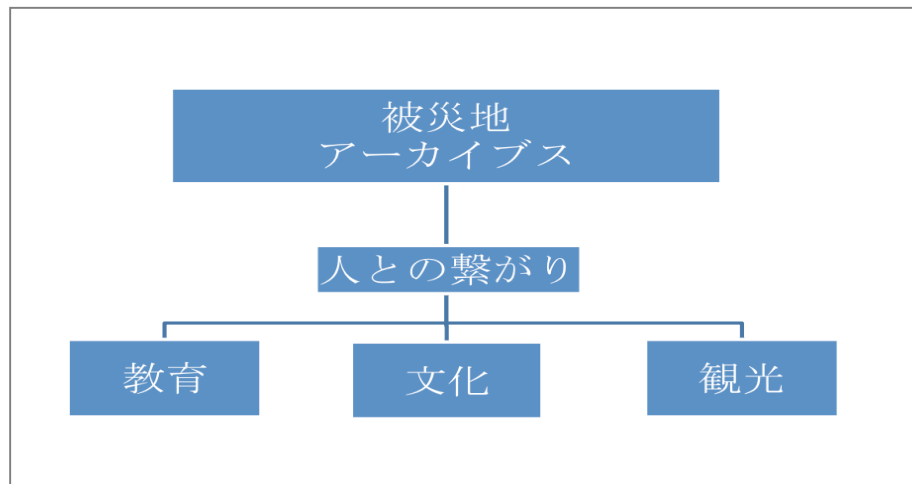
Phone : 0192-47-4791 Mobile : 080-4689-0392

[E-mail : minna@mi-kuni.com](mailto:minna@mi-kuni.com) HP:<http://minnanos.com>

みんなのしるし事業の概要

みんなのしるし合同会社は、被災地の記録をアレンジし様々なコンテンツとして活用します。そして地発型のビジネスとして成功させることで被災地の様々な記録を後世に伝えて行くことが可能だと考えています。現在、教育支援に利用し、また地域の魅力を再発見し観光コンテンツを制作、更に被災者の証言を舞台作品として発信していきます。

下記、概念図の中で最も重要な部分は、「人との繋がり」です。地域に密着し、様々な方からお話を聞き、被災地と一緒に歩き、未来を語る。この「繋がり」は地域に足を運び地道な取材を通してこそ育まれると私たちは考えています。



現在の取り組み

- ① 空間タイムカプセル：私たちは陸前高田市教育課のニーズに応えるべく、被災した小学校を中心に記録を収集しました。流された冊子や学校の資料を撮影し、OB や OG の証言をビデオに録画編集しました。これらを地域の記憶として次世代へ受け継いでいくための情報システムの構築と実用化を進めています。
- ② つながりの旅：私たちは被災地の、特に限界集落「碁石地区」を取材しました。そこにあったのは家を流されてもくじけない強い結びつきでした。この地域の方々の想いに応え観光地として更に魅力を発信して行く為に、様々なコンテンツを開発していきます。上記①と同様なシステムを利用し新たな観光ガイドシステムの実用化を進めています。
- ③ ミュージカル “いのちてんでんこ”：私たちは家や家族をなくした方々、約70人から証言を頂きました。娘さんをなくされてもくじけず前をむき進み続けるご夫婦、避難所で市民の為に初めて仕事をしていると強く実感した若い市職員の話。私たちはそれら大切な言葉を紡いでミュージカルを創造し、国内外で公演する準備をしています。

情報杭システムの説明

頭部に NFC タグが埋め込まれた情報杭にスマートフォンやタブレットを近づけると、必要な情報にアクセスできます。



復興情報杭 □90×L900 5.5kg
側面プレートあり ICタグ入り
㈱リプロ社製

QRコード読み取り



現地で方向アナログナビ【杭には現場絶対視認性！】



浸水・非浸水で色分け



スマートフォン画像（イメージ）



情報杭アーカイブ

名称：〇〇〇
設置日：平成23年12月5日
所有者：××××
連絡先：△△△-△△△△
位置情報：X Y Z
場所情報コード：
●●●●●●
方角写真：
災害情報教材：
社会科学見学・修学旅行：
観光利用：
位置情報利用：
URL：http://www.〇〇〇〇〇.jp



定点撮影とスマホ画面

復興情報杭
web

タグにスマートフォンをかざしてください

復興情報を表示します

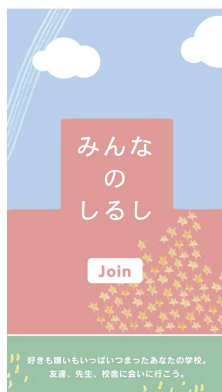


QRコードから読み取る





教育アプリ「空間タイムカプセル情報杭プロジェクト」の説明



背景

家を、職を、家族を失った被災地において、地域の未来である子どもたちがもたらす元気は計りしれません。「再起できる年でもない…」とふさぎ込んでしまう方が、子どもたちの遊ぶ声を聞いて元気になると言います。しかし、子どもたちのかつての遊び場であった校庭には仮設住宅が乱立。子どもたちが自由に動き回れる場所も少なくなりました。

“みんなのしるし”では、スマホアプリを利用して学校内に空間上のタイムカプセルを創造することで、地域の未来となる子どもたちの“夢に向かって一生懸命に取り組む姿”をアーカイブし、地域に保存していこうと試みます。

本プロジェクトのメンバーとなるのは、地域主体の復興に無くてはならない地域の若者たちです。そして、芸能・映像・防災・教育などの業界に長くたずさわる様々な専門家たちが、彼らの活動を支えています。

被災地では地域コミュニティの消失とともに、目には見えないところでも芸能をはじめとする貴重な地域の文化が失われています。地域文化の再生事業に次世代をになう子どもたちと取り組むことで、地域に誇りを取り戻していくことも、私たちの重要な事業の1つです。私たちは“みんなのしるし”の事業を通して、地域を元気にする支援と、長期的視点で地域の自立した復興事業を可能とする素地作りをおこなっていきます。まずは地域が元気になることが、地域復興のための大前提です。地域の元気が、復興に向けた全てのパワーの源になると確信しています。

目的・方法

地域の未来である子どもたちの活動の記録や学区の歴史や文化を、学校内に創造した空間上のタイムカプセルに詰め込んでいきます。写真やムービーなど、何年経っても色あせない記録を残すことで、先生や友だちとの“絆と夢”を未来につなげます。そう云った記録を通して育まれる子どもたちの地域への想いや誇り、そしてキラキラした夢は、やがて地域復興の糧となることでしょう。

具体的な方法と展開案

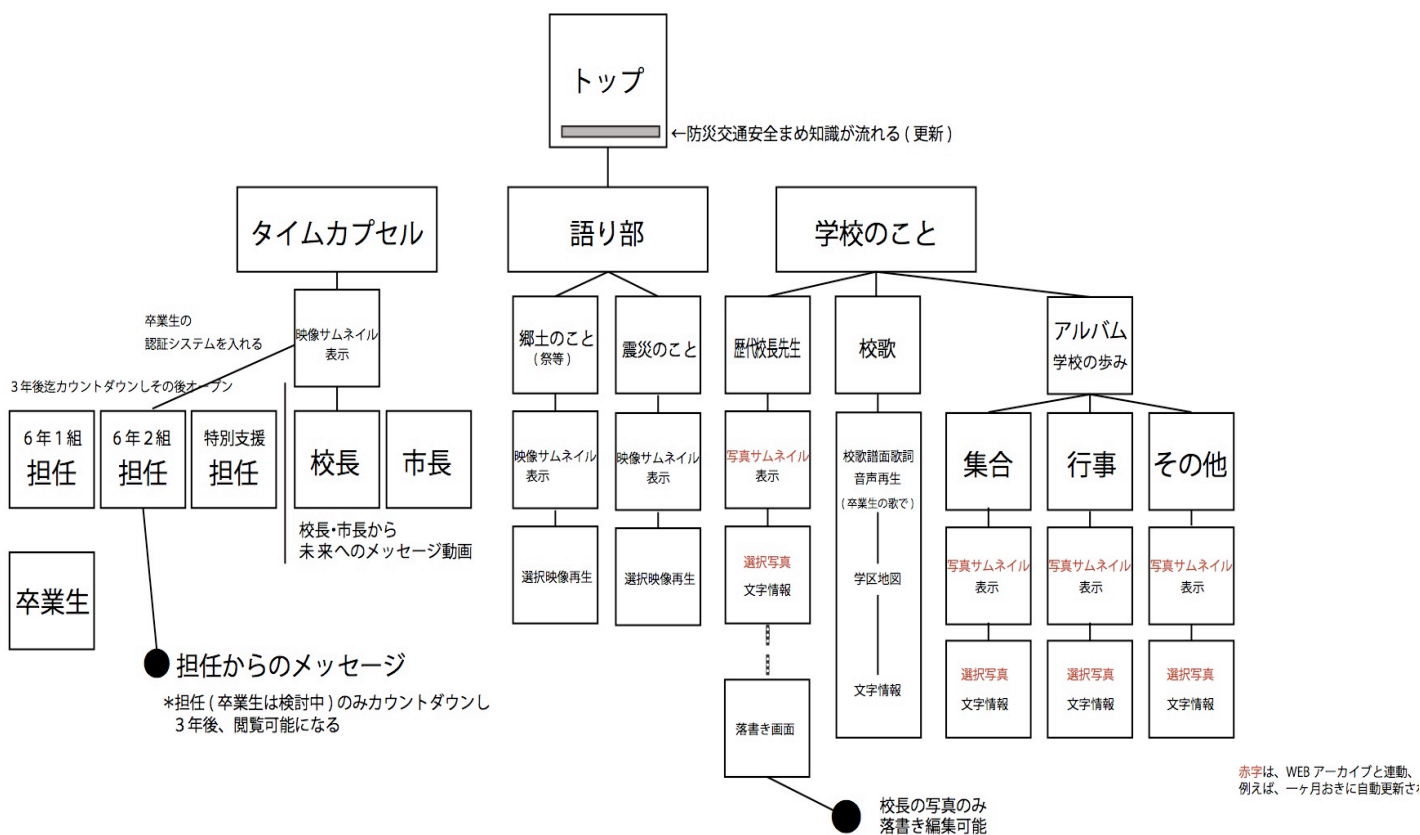
・情報杭とスマホアプリの連携

スマートフォンを当てると情報が画面に表示される杭を学内に設置。その杭の位置(空間情報)を元にスマホアプリと連携させることで、様々な情報をアーカイブしていくためのタイムカプセルを創造します。情報の機密性保持のため、アプリの利用は強固なセキュリティによる登録承認制です。杭がある場所までこなければ、見る事の出来ない階層(未来への伝言)を作ります。

例えば卒業写真や文集などをアップし、卒業生同士がいつでも交流できるソーシャルネットワークとリンクさせることも可能です。クラスメイト同士の連絡のみならず、災害時における安否の確認など、多岐にわたる様々な利用法が期待できます。

本事業は、地元のNPOや民間企業、そしてボランティアを中心に少なくとも3年以上の事業(10~20年と永続的な活動为目标)とします。また本年度に限り、主に中央からの専門家主体に事業を進めていきますが、来年度以降は地元の法人に手渡していきます。

高田小アーカイブス遷移図



報道関係者各位

校庭のすみっこに、こども達の“夢”をつめこんで

“みんなのしるし” 情報杭建立式

みんなのしるし合同会社は、3月22日午前9時(金)陸前高田市高田小学校にて、空間タイムカプセル情報杭プロジェクト“みんなのしるし” 建立式を行います。



日時：平成25年 3月22日 9時より

場所：陸前高田市立 高田小学校校庭

<建立式スケジュール>

9:00 開会、陸前高田市長から挨拶

9:25 高田小卒業生6名による未来へのメッセージ

9:40 校長からのメッセージ、卒業生との杭打ち式

10:00 空間タイムカプセルの説明 (小学校会議室)

本プロジェクトは、東日本大震災による悲劇を繰り返さぬよう、学校の被災前後の記録を収集し地域の記憶として次世代へ受け継いでいくための情報システムの構築と実用化を目的としています。スマートフォンやタブレットを当てると情報が画面に表示される杭(*1)を学内に設置。その杭とスマホアプリを連携させることで、様々な情報をアーカイブしていくためのタイムカプセルを創造します。

主体となるみんなのしるし合同会社(*2)は、昨年10月に、被災地域から情報を発信するコンテンツ制作会社として設立されました。これまで、東京などからの専門家主体で事業を進めてきましたが、平成25年度以降は地域の方々が自立的運営できる仕組みを構築し永続的な活動を目指します。また、卒業生が見る事ができる担任の先生のメッセージも入り(*3)、将来、同窓会の時や帰省の時に“みんなで生きたしるし”を確かめる事が出来ます。同時に、スマートフォンと連動する資料価値が高いWEBサイトも構築します。スマートフォンの気軽さとは別に膨大な資料(*4)を閲覧出来る事で価値の高い郷土資料館としての役割も担います。

*1、NFC対応端末はダイレクトに利用可、それ以外はQRコードで読み取ります。

*2、東京大学生産技術研究所、(株)リプロ、演出家前川十之朗が立ち上げた任意団体[みんなのしるし実行委員会]が前身です。

*3、3年後配信の时限付き *4、一校あたり約1000枚の写真を収集、スマートフィンサイトと連動するシステムに構築する予定です。

<協賛/協力>

陸前高田市 及び 陸前高田市教育課、気仙小学校、小友小学校、広田小学校、大船渡市立末崎中学校、株式会社リプロ、東京大学生産技術研究所、東京大学CSIS、easeback、usagingen、株式会社東海新報社、独立法人防災科学技術研究所、株式会社市川ソフトラボラトリー、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所、株式会社ナブラ・ゼロ、富士ソフト株式会社

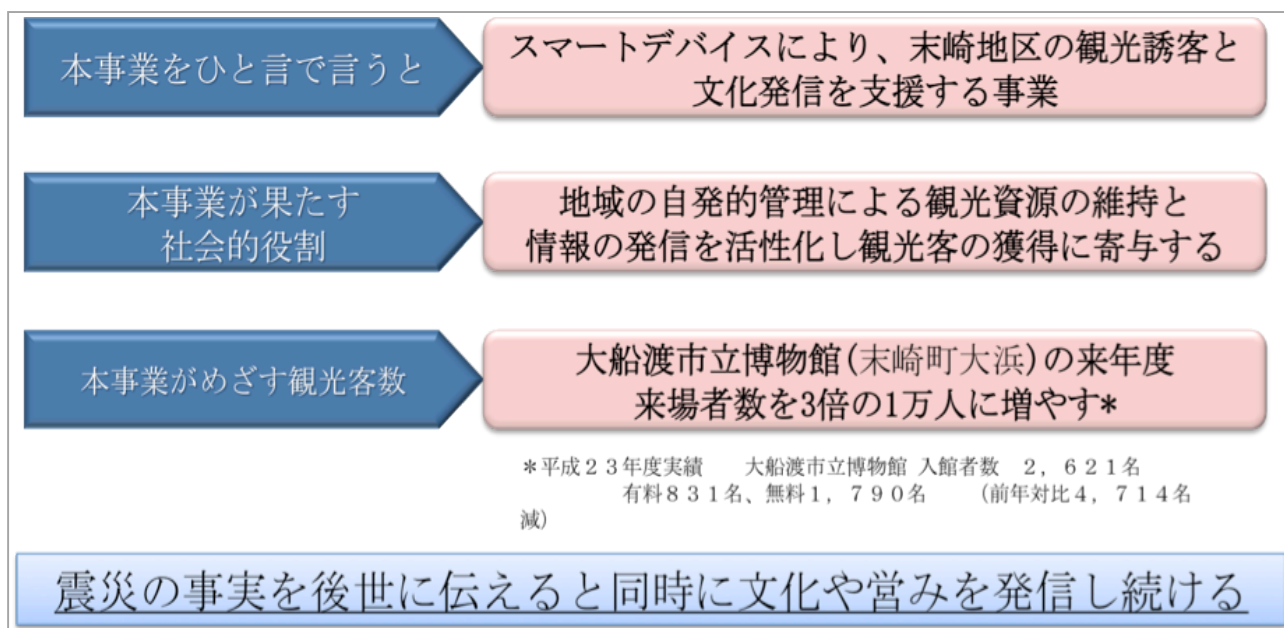
観光システム「みてけらっせん」の説明

私たちは碁石海岸の魅力を開発し、地域性を活かした観光コンテンツとガイドシステムを開発します。地域に住む方々がガイドになり、観光でいらした方々が、震災の傷跡、郷土の文化体験、郷土料理を習い味わって、現地の方と繋がって頂くことが第一の目的です。今後は市との官民協働で進んで行く予定です。

これ迄の取り組み

- 予備調査 自治会との調整、地域商店との調整、碁石地区五年大祭の取材(映像含)、同地区における被災の記録の収集、地域の郷土芸能の収集(虎舞、七福神等の映像録音、各保存会会長のインタビュー)
- 観光モデルのビデオプロト版の制作、観光情報杭を仮設置(1本)、資料整理
- 研究所等との協定 独)東京文化財研究所、東京大学生産技術研究所、独)防災科学技術研究所との協力協定を結ぶ
- 大船渡市は碁石海岸小型観光遊覧船組合を組織し、小型遊覧船に乗船し、海上から碁石海岸の景観を眺望する「碁石海岸穴通船アドベンチャー」を実施し、体験型観光を推進。

本事業の目的



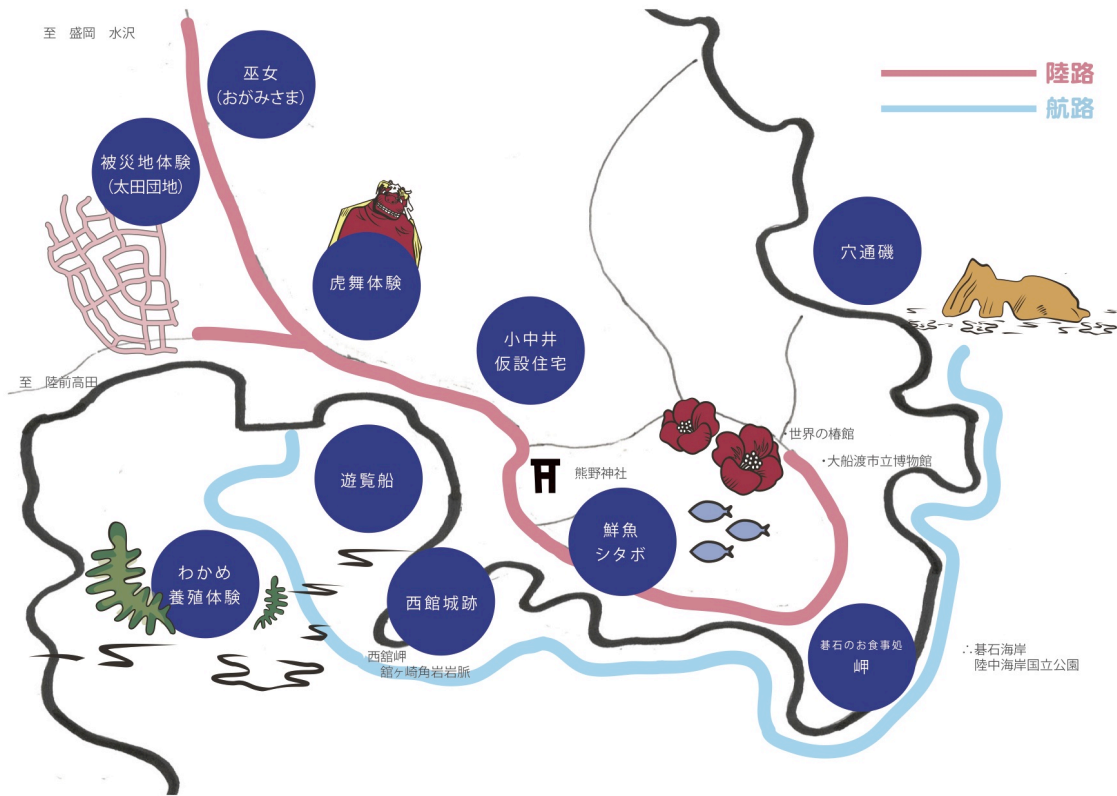
地域の現状と課題

- 碁石海岸は、陸中海岸国立公園南部地域を代表する景勝地であるが、観光客数の減少や地域の高齢化等により、旧来型の「景観を見るだけの観光地」となりつつある。
- 碁石海岸周辺には、これまで注目されてきた景観以外の観光資源、文化始源が豊富でありながら、その価値を内外に伝達出来ていない。
- 独) 防災科学技術研究所や東京文化財研究所と云った研究機関がアーカイブした資料が観光の為に役立てられていない。
- 地域住民や自治体が保持する震災や文化(祭や産業)の資料が埋もれている。
- 被災した民間の土地(現状は空き地)が利用出来ていない。
- 限界集落と云われているこの地区の強い結びつきを最大限に活用すべきである。
- 今後、被災地区への注目度が薄まっていく中“被災地に人を呼び込む”と云う事が大きなテーマとなる。→東日本大震災の記憶が風化する中、防災教育の観点から被災地で無ければ伝えることができない震災の教訓を学んでいただくと共に、被災地区に人を呼び込み地域元気を取り戻し、観光地再生を図ることが大きなテーマとなる。
- 市町村や民間が連携し地域住民や地域企業の意見を取り入れた地発型の発信を行う事で、新たな観光スタイルの潮流の一端を担って行かなければならない。
- 地域の核家族化が進み高齢者と若年層の連携を取り戻さなければならない。
- 碁石海岸穴通船アドベンチャーを実施していたが、東日本大震災の津波被害により、遊覧船保有者の大半が舟を消失し、現在2艘のみでの再開となっており、以前のようなバス1台程度の観光客の受入が難しい。
- 宿泊施設が少ないため、泊付きのツアーでは大人数の受入ができない。

資源の活用方法

- 東京大学 CSIS の空間情報システムと株式会社リプロの情報杭を利用し、タブレットやスマートフォンを中心デバイスと位置づけ、地域からの情報発信を行う。
- 防災科学技術研究所や東京文化財研究所等の研究機関がアーカイブした資料を観光用に利活用する。
- 地域の住民や商店が自発的に情報を発信出来る様、基盤を築く。
- 地域の住民が率先し観光ガイドが出来る様な基盤を創出。
- 高齢者(エリアガイド)と若年層(サポートガイド)が連携する事に寄って地域の繋がりがより高まる。
- 碁石海岸の壮大な景観を海から見る事ができる碁石海岸穴通船を復活させるため、当該地域の漁業協同組合と連携しながら再編成を図る。

観光マップ



モニターツアーのイメージ

このガイドには最低二人の地域ガイドが就きます。

観光案内デモムービー YOUTUBE アドレス <http://youtu.be/iu0wXvUpjuQ>

エリアガイド：1 集落(1 コンテンツ)ごとに地域を熟知した年配者のガイド
サポートガイド：碁石全体をエリアガイドと連携しながら回る若年層のガイド
また、サポートガイドの方は、タブレットを利用しエリアガイドの助けをします。

【1日目】

- 11:00 盛駅到着
- 11:30 碁石お食事所にて、ツアーの説明及び昼食
- 12:45 大田団地等、被災の大きいエリアを情報復興杭を活用し被災者と共に歩く
- 13:45 碁石海岸穴通船乗船 (漁師ガイドを伴ってタブレットを利用したジオパークツアー)
- 15:00 西館城と岬の森散策(和胡桃ひろいや山菜採りなど)
- 16:00 近隣商店でのおちゃっこ
- 17:00 仮設住宅に住んでいるお母さん(エリアガイド)の料理教室
- 18:00 仮設での夕食会
- 19:30 民宿にて宿泊 *日帰りも可能、ただし高速バス(21:2 盛駅)でのお帰りとなります。

【2日目】

- 9:00 オプショナルツアー
 - ・ガイドと共に漁師体験及びフィッシング
 - ・郷土芸能体験(虎舞、七福神等の昔語り)
 - ・おがみさまの聞く(占いや昔語り)
 - ・私立博物館、世界の椿館等ガイドのレクチャーを受けながら見学
- 12:00 碁石お食事所にて昼食
- 13:00 陸前高田市米崎〜一本松を地元ガイドと共に歩く
- 15:00 終了

ミュージカル “いのちてんでんこ” の説明

私たちは、Theater & music 未國のミュージカル作品 “いのちてんでんこ” を制作します。

未國とは

2002 年春、東京に於いて、舞踊家・音楽家・美術家などのクリエイターが、前川の想いに賛同し、「未國」は結成されました。我々は、日本の全ての芸能の起源は、- 祭り- にあると考えます。民謡、神楽、猿楽など、今もなお継承され続けている日本の伝統芸能において、かつては、階級、職業、宗教といった隔たりは存在せず、すべての人々が解け合い混ざり合いました。未國は、様々なフィールドで活動する表現者たちが集まり、この - 祭り- を創造の源泉とし、現代にプリミティブな感性を呼び覚ます舞台表現を目指しています。綺麗でまとまりのある舞台ではなく、様式に捕われない荒々しい異空間を探求し続けています。[HP:mi-kuni.com]

“いのちてんでんこ”

このミュージカルは、代表であり演出家の前川が被災者約 70 名の証言と東北の文化でもある郷土芸能をベースに作られています。未曾有の大災害「東日本大震災」の記憶が風化していく現状を変えたい、その一心で国内外に発信していき被災地の現状もお伝えして行きたいと存じます。

粗筋

市役所に入り立ての若い職員が事務作業中に東日本大震災を体験する。若い職員は海沿いの避難所の世話係に任命され公民館で避難民と一緒に生活を始める。極限の状態の中で若い職員は力が発揮出来ずに苦しむ。やがてそこには、忘れ去られていた老人と子供の親密な対話、郷土芸能などの地域の文化や風土が根付いていると気付く。愛する人や家財も全て流され、現実から目を背け未来が見えず自殺をする人もいる。ある日、被災後初めて集会場に仮設風呂がやって来た。避難民は喜び、若者は風呂を湧かす為の薪割りをもくもくとこなした。来る日も来る日も・・・

食料不足で食べ物と云えば白いオニギリだけだったが手を休めた若い職員はそれを大事に涙して頬張った。平静の時は何でも無いと思っていたことに美しさおぼえた。青い空、憎むべき海がただただ美しかった。若者はこの仕事“薪割り”を通して全ての物に感謝した。いつしか、極限の状態の中でこの「若い職員の命の輝き」が被災地の太陽となっていく。

